

永芳閣 CI(ロゴマーク)決定。資生堂ギャラリーにて初お披露目。

いよいよ永芳閣のCI(ロゴマーク)が決定いたしました。

試行錯誤の末ロゴ単体では用いず、必ずブルーモノトーン写真と、中村政人のドローイングした抽象的なグラフィックエレメントとを構成した状態で使用するフォーマットが決まりました。

ロゴマークについて

象形文字をモチーフにしつつ現代的なアレンジを加え、オリジナルで書き起こしたものです。もともと「永芳閣」という漢字は読めないであろうと想定し、おもいきったデフォルメを施しております。ただその代わりに英語での表記を加え読めるようにしました。その下には「since 1937」といれることにより「創業1937年」という歴史を感じさせ現代風にアレンジした新しいロゴとのコントラストにより引き立てております。「氷見温泉郷 魚巡りの宿」というキャッチフレーズも長い間論議し決定したものであり、そこでほとんどの説明をしております。

組み合わせる写真について

組み合わせる写真については、昔の永芳閣の写真が残っていて、それが結構面白いとのことで使用しております。そしてこれから新しく再生する永芳閣を表す意味でも歴史というものの存在が大きいからです。そして過去の歴史的な写真を用いることで生まれ変わるという対比的な意味を暗示します。またこの写真は古いものに限らず新しい写真も使用できます。例えば名刺に入るロゴはその人が写真を選んで使用できるようにするなど。

グラフィックエレメント

グラフィックエレメントは中村政人のドローイングによるものです。様々なモチーフから抽象化した有機的なかたちです。例えば永芳閣の文字から形を抜き出したり…子供が描くような何とも言えない形です。しかし意味を限定しないかたちだからこそ、確実に意味を伝える写真との組み合わせによりそれは大きく膨らむ意味を持つのです。

サスティナブル

”サスティナブル”とは”持続可能な””継続的な”という意味で、環境問題などについて用いられたりしていますが、このCIはそういうことも含めて考えられています。



1. CI(ロゴマーク) / キャッチフレーズ・ローマ字表記・創業年



2. 昔の永芳閣の写真 / 現在の写真も含める



3. グラフィックエレメント / 中村政人のドローイング

